

CO・OP

京都の生協

2017/August/No. 93
京都府生活協同組合連合会



奪い合いではなく、ともに働き分かち合い、みんなで幸せをつくる
——二宮金次郎の生き方から学ぶ「協同」の思想——

TalkTalk トークトーク

二宮金次郎七代目子孫・
「親子をつなぐ学びのスペース “リレイト”」代表
京都府生活協同組合連合会 会長理事

なか ぎり まりこ
かみ 桐 万里子さん
上 かけ とし ひろ
利 博

対談

TalkTalk トークとーく



奪い合いではなく、ともに働き分かち合い、みんなで幸せをつくる

——二宮金次郎の生き方から学ぶ「協同」の思想——

二宮金次郎七代目子孫・「親子をつなぐ学びのスペース「リレイト」」代表

中桐 万里子なかぎり まりこさん

京都府生活協同組合連合会 会長理事

(京都府立大学公共政策学部教授)

上掛 利博かみかけ としひろ

二宮金次郎といえば、薪を背負い歩きながら本を読む少年の像が有名で、小学校の校庭には必ず建てられていました。勉強ができる優等生のイメージが強い金次郎ですが、じつは画期的な表彰投票制度や融資制

度をあみだしたアイデアマンであり、いち早く協同の思想を実践した人でもありません。江戸末期の篤農家・金次郎の生き方は、現代の私たちにもヒントになりそうです。

大切なのは、世間の目より自分の良心

上掛 中桐さんは、二宮金次郎について、ご家族からどんなお話を聞いてこられたのですか。

中桐 金次郎のふるさと小田原で、小学生のころから祖母と同居していましたので、金次郎の話は毎日のように聴きました。一般的に、あの像は、つらくても頑張る模範生や熱心に勉強している優等生の像と捉えられているかもし

れませんが、家族のなかでは「模範生の像ではない。金次郎は、本当に正しいことは自分の良心が知っているのだから、世間や他人がどう言おうと、自分の良心に忠実に生きようとした。その姿を示す像なのだ」と語られてきました。じつは、彼が本を手にしているのも、単に勉強のためというよりも、幼いころに亡くした両親が何を大切にして生

きたのかを探ろうとして、父の形見の本を読んでいたといわれています。農民に勉強など必要とされない時代、しかも親を亡くしたことを嘆きも絶望もせず、黙々と働き、黙々と学び、亡き父の言葉に耳を傾けている金次郎を、村人たちは「奇妙な子どもだ」と見ていました。

そんな金次郎の生きざまからか、家族の者たちはわたしに言いました。「心にも田んぼがあつて、田んぼには雑草も作物も生えてくるように、私たちにも悪心と良心の両方

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談

奪い合いではなく、ともに働き分かち合い、みんなで幸せをつくる

京都府生協連 第64回通常総会開催 8
ピースアクション京都 2017 10
ヒバクシャ国際署名学習会 11

●京のアジェンダ21フォーラム総会 13
●京都地球温暖化防止府民会議総会 13
●全京都勤労者共済生協 (全労済京都府本部)・京都労済創立60周年記念式典・レセプション 13
●京都勤労者福祉協議会定期総会・京都府内社会貢献活動 13

NPO法人消費者支援機構関西 (KC's) が特定適格消費者団体に認定されました 7
適格消費者団体・NPO法人京都消費者契約ネットワーク (KCCN) 総会・講演会 7
京都府災害ボランティアセンター総会・全体研修会開催 7
豊かな森が育む「浦島エコロー森づくり」育樹活動 7

TOPICS

●きょうと食育ネットワーク総会・実践型食育講演会 12
●京都食品産業協会定時総会 12
●京都市ごみ減量推進会議第21回通常総会 12
●京と地球の共生府民会議総会 12
●京都グリーン購入ネットワーク第14回通常総会 12

京都府生協連 第23回

「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」 14

おもな行事のお知らせ 14



京都府生活協同組合連合会 会長理事
（京都府立大学公共政策学部教授）
上掛利博



「宮金次郎七代目子孫」「親子をつなぐ学びの
スペース「リレート」代表
中桐万里子さん

が生えてくるから、良心に忠実に生きることが大切で、世間にとって模範生である必要はない」というのが金次郎像からのメッセージだ。

あの像でもうひとつ言われ

てきたのは、小さく一歩、前に踏み出されている足のことでした。金次郎は、生涯にわたって、「勤勉」よりも「勤労」を唱え、働いて汗をかくことやどんなときでも一歩前

へ踏み出すことを重視しました。「口だけ、物知りなだけ、頭だけ」というのをいちばん嫌い、実践することを尊いと考えたのです。

終生、農業人として 自然から学んだ金次郎

上掛 金次郎は「尊徳」という名から、農民というイメージがあまりないのですが、

にあると考えていたようです。ですから、私も彼を「金次郎」と呼んでいます。

中桐 彼は、農家に生まれ、農業人として生涯を終えましたが、35歳から農村再建の指導者という役割も負うようになりました。江戸時代に指導者になるのは武士のみですから、金次郎も藩内では下級武士の位を与えられていました

上掛 金次郎は、飢饉に苦しむ農村を救った人物として知られていますが、そうした力をどのようにして身につけたのでしょうか。

が、実質は農業人であり続けました。56歳のとき、天領地の指導を任せられると、さすがに農民ではまずいので武士になり、「尊徳」と名前を変えますが、私信には「金次郎」という名前を使い続けました。あくまでも「尊徳」は公的な仕事をするときの名前であって、自分のアイデンティティは農業人としての「金次郎」

中桐 彼は、とてもドライで、客観的な観察眼の持ち主でした。自分にとってリアルでないものは、論語に書いてあるようなどんなに偉い人の説

でも、採用せず、固定観念を排し、くもりなき眼でよく観察し、常に「現実的かどうか」を大事な判断軸にしました。それは、彼の性格以上に時代の影響が大きかったのだろうと思います。当時は、いまの時代と似ていて、自然災害が多発し、それまでのマニュアルどおりでは作物が実らない状況でした。そうになると、ともかく観察をして、何が起きているのかを把握したうえで工夫の仕方を考えなければなりません。ですから、よく観察し、それを徹底して記録に残しました。

歴史という時間軸から、 未来を見通す

上掛 私は大学教員ですが、昨年の大学院のゼミで『相互扶助の経済／無尽講・報徳の民衆思想史』（テツオ・ナジ

夕著、みすず書房）を取り上げました。そのなかに、「尊徳は、通常の人間には、ものごとを理



「救済」から「協同」へ

解し、ありのままの現実に対する取り組みを記録する基本的能力があると信じていた」という一節があり、その「記録」は真実に対するゆるぎない取り組みの証として残るため、「報徳」を実践した村落では、文書を保管しておくための耐火性の蔵を建てたと書かれています。

この指摘は、とても新鮮でした。というのは、このように記録を文書にしてきちんと残しておけば、歴史を振り返ることができ、そこから現在を見ることによって未来を考えることができます。最近では社会全般に「いまだけ、イメージだけ」を重視する風潮がありますが、現在を見えるだけでは将来のことは見えないので、心配になります。

中桐 たしかに金次郎は、歴史という時間軸を入れるこ



とを大切にし、データを可能なかぎり遡ることを基本にしていましたが、当時は100年ぐらいい遡ることができるとは珍しくなかったそうです。つまり、村々に歴史を残そうと努力する人たちがいたわけです、そう考えると、江戸という時代の奥深さといえますか、底力を感じますね。継承されてきた記録を見れば、その土地の傾向がわかり、過去に似たような状況を乗り越えた実績があるかもしれず、そこに現状を打開するヒントや知恵が隠れている可能性もあります。それが大きな学びにもなり、それをもとに長期的なビジョンをたてることもできるわけです。

※報徳
受けた恩徳にむくいること。「報徳仕方」は二宮尊徳が創始・唱道した生活様式で、農民の困窮を救済し安全な生活を営ませる方法。

上掛 金次郎は、600もの村を復興させたといわれています。すべての村に自分で足を運んだとは考えにくいのですが、このように多くの村の改革プランを立てることができたのは、なぜでしょうか。

中桐 みずから足を踏み入れた村は200数十で、それ以外はお弟子さんや長男に観察のポイントを指示して赴かせ、その結果をしつかり分析して、復興計画を立案したようです。

でも、大いなる挫折も味わったようです。自分が直接、手をかけた田畑はちゃんと実りましたが、指導者になり、「困っている村や農民を、自分が救ってあげなきゃ」というふうには、自分が上の立場に立ち、相手を弱者と捉えてしまったことで、大きな反発を受けたのです。

そこで金次郎は、「一人ひとりが主役にならないと、農村再建はうまくいかない。農民は、弱者ではなく、ともに立ち上がる仲間だ」と気づき、一人ひとりの心に灯をともし

こと、つまり人づくりが自分のいちばん大事な仕事だと考えるようになりました。農村再建の指導者という役割をもったことで、新しい気づきを得て、「救済」から「勧業」「協同」へと発想を変えたのです。

上掛 お互いに対等だから、「救ってあげる」のではなく「協同してともに働く」ことができたのです。金次郎がそう認識するようになって、具体的にどのような変化が起きたのですか。

中桐 たとえば表彰制度の変化です。彼は、村おこしをするとき、表彰制度を重視していました。挫折するまでは表彰者を自分で選んでいま

した。でも、自分の価値観だけで相手を評価していることに気づいて、みんな対等なのだという自覚から、「表彰投票制度」に変え、村人一人ひとりに投票権を与えるようにしたので。

よく観るじや、一人ひとり大切にすべし

上掛 金次郎は徹底して記録を残したメモ魔だったそうですが、たしかに、新聞や本を読んだり、人の話を聴いたりする時、メモをとると中身がきちんと頭に入りますね。

中桐 私も、観察して、それを書きとめるという方法を、子育て支援の活動に取り入れています。私の専攻は臨床教育学で、現在は親子を対象にしたレススルーム、リレイ



トを運営しているのですが、そこに金次郎のやり方を応用した「観察日記」という手法を取り入れているのです。

というのは、親は子どもの

ことをいちばんよく知っている

ようで、じつは意外に見えて

いません。そこで、簡単な

観察日記を書いてきてもらう

のです。その際、観察ポイン

トを決めておくと書きやすい

ので、たとえば「この子が泣

くところ」をポイントにして、

泣く頻度、泣く原因、泣くと

きの様子（わんわん泣くのか、

シクシク泣くのかなど）、泣

きやむどきの様子などを徹底

的に記録してきてもらいます。

それをもとに、親御さんと一

緒に、その子の性格や、その

子を活かすにはどうすればい

いかを考えていくわけです。

同時に、子どもにも「朝起

きたら、前の日のことを一行

だけ書いておこう」と言って、

一行日記を書いてもらいます。

それを続けていくと、子ども

は自分がどんなことを大事に

しているのかを確認できるよ

うになります。

上掛 ものごとを相手にき

ちんと伝えようと思うと、た

とえば自己紹介するとき

「音楽が好き」というとそれ

で話は終わりますが、「J P

OP（日本のポピュラー音

楽）が好き」と具体的に話す

と伝わり方が違ってきて、「ぼ

くも好き」とか「誰それがい

い」と共感をもって受けとめ

られます。人間は一人ひとり

違うのですから、具体的に話

すことが大切で、それは個性

を大切にすることにも通じる

のではないのでしょうか。

中桐 そうですね。ただ、

「個性が大切」といわれるの

に、自分の個性は見えていな

いのかもしれませんね。大学

の授業で、学生に「あなたた

ちの思うことを書いて」と言

うと、「ぼくたちは自分の意

見を聞かれるような経験はほ

とんどなかった。いつも先生

や親が模範解答を持っていて、

『何が答えでしょうか?』と

聞かれてきた。だから、『ど

う答えたら丸なのだろう』と

いう思考はたくさんしたけど、

模範解答に閉じ込められ、縛ら

れ、自分を知る機会さえも少

なくなつた時代かもしれませ

んね。

自分はどう感じているのか、

自分にとつてそれは何なのか

を考えてみたことはない」と

いうような声がたくさん返っ

てきました。

思いも体験も、一人ひとり

違い、すごくカラフルでいい

はずなのに、いまは一つの模

範解答に閉じ込められ、縛ら

れ、自分を知る機会さえも少

なくなつた時代かもしれませ

んね。

自分の考えを形成す

るうえで、メモはとても有効

だと思えます。最近の学生さ

んは黒板を写すことはしても、

メモをとるのは苦手なようで

す。習慣にするのは難しいで

すね（笑）。

中桐 メモしたことを使う

場があるかどうかポイント

ではないでしょうか。リレイ

トの親御さんが観察日記を継

続できるのは、それをもとに

話をして、子育ての実践に活

かせるからですし、金次郎も、

自分のメモは、工夫を生み出

すためのデータとして使いま

した。

私自身は、メールの最後に、

必ずその季節に見つけた事柄

を書くようにしています。そ

うすると、季節の変化やもの

ごとの細やかな動きをよく観

ることが習慣になります。で

すから、観察やメモは、発信

したり活用したりすると継続

できるのではないかと思いま

す。

上掛 なるほど。本を読ん

だり映画を観たら、感想を友

だちと語り合うのも「発信」

ですね。

中桐 そうそう。そうする

と、「そんな見方もあるの

か」とか「じゃ、もう一回読

んでみよう」「別の作品も読

んでみよう」というような循

環が生まれるかもしれません。

金次郎も、円のよう

に循環

する

季節がめぐるように、ぐるぐ

ると回ることが継続・永続の

かなめであり、直線は永続し

ないと考えていたのです。た

しかに、観察して、自分のな

かにインプットしたことを、

誰かに向けてアウトプットす

るという円環があれば、それ

が習慣となり、感度もより高

くなるだろうと思います。

そう考えますと、人のつな

がりも、助けられるだけでは

継続しないので、あるときは

援助の受け手であり、またあ

るときは与え手であり、助け

られて助けるという、その循

環から生まれるような気がし

ます。

ます。

よい習慣を身につけるには…



れ、自分を知る機会さえも少なくなつた時代かもしれませんね。

多様なものがつながるには、 知恵が必要

上掛 それはまさに「協同の思想」ですね。金次郎は「報徳金」という貸付制度をつくって、農民の自立を支援しましたね。

中桐 金次郎がつくった金融ファンドの「報徳金（五常講）」は、10両を借りたら、返済するときはそれに2両を足して、12両を返すシステムです。

12両は、金次郎に戻るのではなく、次の誰かを救う原資でした。融資を受けた人は、元金に2両足して返すことで、助けられた側で終わらず、今

度は誰かを助ける側になるわけです。

考えてみると、プレゼントって、もらうときもですが、相手に贈るときの方がドキドキ、ワクワクしませんか。

相手の喜ぶ顔を見ると、すぐくうれしくなりますよね。つまり、2両をプラスして返すことは、喜びを大きくふくらませることなのです。

上掛 自分が受けた恩を、直接の相手に返すのではなく、見知らぬ誰かに送る。つまり、「恩送り」というやり方を、金次郎は採用したのです。すぐに見返りを求める現代の社会経済システムに対抗して、注目される考え方です。

中桐 西洋に多い狩猟採集民族型の発想では、資源は限られているのだから戦って奪いとらねばならないと考えますが、金次郎は根っからの農業人でしたので、「争う前に、みんな働いて、ともにつくりだそう。幸せは、奪いあうような限られたものではなくて、自分が動き出すことでつ

くれるものだから、増産して、みんな豊かになったほうがいい」と考えました。農耕民族型というか、生産者の発想ですね。

上掛 「幸せは、分かち合えば増やすことができる」という発想は、まさに協同組合の思想だと思います。組合員は、単なるサービスの受け手ではなく、社会の主人公として、よりよい地域づくりにも関わっています。

こうした思想や実践が評価されて、昨年、協同組合はユネスコの「無形文化遺産」に登録されました。協同組合の発祥の地ドイツでは、30歳代の若者たちが有機野菜の協同組合をつくって、希望を持ってイキイキと働いています。

中桐 それはおそらく、彼ら自身が考えたり、決めたりできるからでしょうね。人は、主体的に動いているときがいちばん活性化します。

上掛 ドイツで協同組合は3人集まれば結成できるので、組合員の若者たちは「共通の思いの人が集まれば、一人では不可能なことも可能になる」ということを実感しながら、働いているのです。

中桐 金次郎はそのあたりのことを「一円融合」と呼んでいます。男と女がいて二人の子どもが生まれる。朝と夜があって一日になる。春夏秋冬で一年になる。結局、「一」は多様なもののつながり、すなわち融合からしか生まれない。だからこそ、共感や協同、きずな、相互扶助が必要なのだ、と彼は説明しています。

多様ということは、言い換えればバラバラということですから、それがつながるには知恵が必要です。その意味では、協同組合が助け合いの思想や、学ぶこと、自分とは異なる者の声に耳を傾けることを大切にしておられることは本当に意味深いと感じます。

上掛 多様性を尊重しようとする時間も手間もかかりますが、そこにこそ大切なものがあるのだと、金次郎さんのお話をうかがうことで理解できました。そういうことに取り組める「人づくり」は、やはり協同組合のかなめですから、「学びながら働く」実践する」ことを大事にしていかなければと思います。本日はありがとうございました。

(写真撮影：有田知行)

プロフィール 中桐 万里子 (なかぎり まりこ)

親子をつなぐ学びのスペース リレイト 代表。

●略歴

1974年 東京生まれ。
茨城や神奈川で育つ。現在は京都在住。
二宮金次郎（尊徳）より七代目の子孫。
慶応義塾大学環境情報学部を卒業。
京都大学大学院修了。
京都大学にて教育学の博士号を取得。専門は臨床教育学。

京都大学研究員や関西学院大学講師を経て、現職。
他にも、全国での講演会や企業研修での講師をつとめ、
国際二宮尊徳思想学会常務理事、日本道経会大阪支部顧問、
BAC倶楽部会長なども兼務している。

著書には「二宮金次郎の幸福論」「二宮金次郎に学ぶ生き方」「現代に生きる二宮翁夜話」（すべて致知出版社）などがある。



NPO法人消費者支援機構関西(KCC's)が 特定適格消費者団体に認定されました

6月21日(水)、KCC'sは消費者の財産的被害の集団的な回復のための民事の裁判手続きの特例に関する法律(以下、集团的消費者被害救済制度)の規定に基づき、内閣総理大臣より「特定適格消費者団体」に認定されました。同日、松本純

集团的消費者被害救済制度が、2016年10月に施行され、「特定適格消費者団体」の認定を受けるのは、消費者機構日本(COJ)に続いて、全国で2団体目となります。6月24日(土)には、KCC'sの2017年度通常総会が、新大阪丸ビル別館で開催されました。総会では、提案された全議案が承認されました。役員改選では、京都府生協連・高取淳専務理事が理事に選出されました。

これにより、KCC'sは、差止訴訟や申入れにより、消費者被害の未然防止・拡大防止等のこれまでの活動に加え、被害にあった消費者に代わり金銭的な被害回復のための訴訟を提起することができるようになりました。

また、特定適格消費者団体に認定されたことが片山副理事長より報告され、消費者市民社会の実現に向けた新たな使命・ミッションについても確認しました。総会後、「新しい消費者被害回復制度を、わたしたちの制度として使うために、もっと知りたい!特定適格消費者団体!」をテーマにシンポジウムとワークショップが開催されました。



KC's・片山登志子
副理事長

また、特定適格消費者団体に認定されたことが片山副理事長より報告され、消費者市民社会の実現に向けた新たな使命・ミッションについても確認しました。総会後、「新しい消費者被害回復制度を、わたしたちの制度として使うために、もっと知りたい!特定適格消費者団体!」をテーマにシンポジウムとワークショップが開催されました。

適格消費者団体・NPO法人 京都消費者契約ネットワーク (KCCN) 総会・講演会

5月31日(水)、京都弁護士会館で開催されました。同ネットワーク・高尾英弘理事長が開会あいさつをおこない、長野浩三理事・事務局長が議案提案。全議案が承認されました。総会後の記念講演で「平成28年改正消費者契約法とその後の動き」と題して、消費者庁消費者制度課・増田朋記氏より報告がありました。

増え続ける消費者被害防止と未然防止をめざして消費者救済のために改正内容を検討した結果、改正消費者法では、高齢者の判断能力の低下などにつけこんで大量に商品を購入させるような契約の取り消しなどが付け足されたことなど、具体的な改正内容について説明がありました。京都府生協連・高取淳専務理事がひきつづき副理事長に選出されました。

京都府災害ボランティアセンター 総会・全体研修会開催



京都府災害ボランティアセンター・
宮本隆司代表(当時)

総会終了後、「災害ボランティアセンターの運営でこんな時どうする」をテーマに全体研修会が開催され、一人ひとりがセンター長の立場となつて運営を考え、災害ボランティアセンターのあるべき姿を考え、学びました。

豊かな森が育む「浦島エコロ ー森づくり」育樹活動

6月11日(日)、本願寺開法会館研究室で開催されました。京都府災害ボランティアセンターは、2004年に発生した台風23号による災害の教訓を活かし、被災地で円滑なボランティア活動をおこない、早期復旧につくすことを目的に2005年に行政、民間団体等による公民協働組織として発足しました。総会では、「2016年度事業報告・監査報告と決算」「2017年度事業計画と予算」「役員改選」について審議し承認されました。

京都府では、海・里・山の連携による海洋環境保全の取組みとして、2001年から5年間、「浦島エコロの森づくり」育樹活動を実施し、伊根町太鼓山に、もみじ、ヤマザクラ、ソメイヨシノ等の広葉樹を植樹してきました。

6月11日(日)、伊根町太鼓山で植樹をした木々周辺の下草刈りが実施されました。京都府漁業協同組合主催。漁業関係者や府民109人が参加しました。京都生協からは大川洋CSR推進室マネジャーをはじめ6人が参加、京都府生協連から高取淳専務理事が参加しました。

6月11日(日)、伊根町太鼓山で植樹をした木々周辺の下草刈りが実施されました。京都府漁業協同組合主催。漁業関係者や府民109人が参加しました。京都生協からは大川洋CSR推進室マネジャーをはじめ6人が参加、京都府生協連から高取淳専務理事が参加しました。

京都府生協連 第64回通常総会開催

全議案を満場一致で可決、役員21人を選任

6月13日（火）、午後1時30分から京都府立社会福祉会館ハートピア京都で、「京都府生活協同組合連合会第64回通常総会」を開催しました。今総会の代議員数は44人で、当日の出席は本人出席36人、書面出席8人でした。ご来賓をはじめ、77人の参加となりました。



開会あいさつをする
上掛利博会長理事

上掛利博会長理事が開会のあいさつをのべ、つづいてご来賓の京都府危機管理監兼府民生活部・前川二郎部長（当時）「京都府・山田啓二知事代理」、京都労働者福祉協議会・橋元信一会長から、ご祝辞をいただきました。

酒向直之事務局長が、「ヒバクシャ国際署名」に一緒に取り組む、京都原水爆被災者懇談会のメッセージを読み上げ、国会議員、各関係団体、各生協からいただいた83通の祝電・メッセージをご紹介しました。

提案されたすべての議案が、満場一致で可決されました。員外理事をふくむ18人の理事と3人の監事が選任されました。

2017年度の役員体制は左ページのとおりです。



祝電・メッセージをお寄せいただいた方がた

（敬称略・順不同・6月13日現在）

衆議院議員自由民主党	田中 英之	衆議院議員民進党	泉 ケンタ	衆議院議員民進党	山井 和則
衆議院議員民進党	北神 圭朗	衆議院議員民進党	前原 誠司	衆議院議員日本共産党	こくた恵二
参議院議員日本共産党	井上さとし	参議院議員日本共産党	倉林 明子		
京都市長	門川 大作	京都府議会議長	村田 正治	京都府社会福祉協議会会長	位高 光司
京都市社会福祉協議会会長	村井 信夫	京都商工会議所会頭	立石 義雄	京都府農業協同組合中央会会長	中川 泰宏
京都府漁業協同組合代表理事組合長	西川順之輔	京都府森林組合連合会代表理事会長	青合 幹夫	京都原水爆被災者懇談会世話人代表	花垣 ルミ
京都「被爆2世・3世の会」世話人代表	平 信行	原水爆禁止京都協議会代表理事	渡邊 賢治		

京都府生活協同組合連合会 第64回通常総会へのメッセージ

福祉の充実とくらしの安全、地球環境保全や食料問題、消費者問題をはじめ、平和・核兵器廃絶、憲法を守り、民主主義の実現のために活動されているみなさんに心から敬意を表します。

核兵器禁止条約について交渉する第2回国連交渉会議（6月15日～7月7日）が周近に迫ってきました。核兵器禁止条約の草案も発表され、禁止条約実現の機運が日に日に高まっています。

こうした動きをさらに後押しするために、被爆者が残りの人生をかけて訴えた核兵器廃絶を求める「ヒバクシャ国際署名」のとりくみが、世界と日本で急速に広がっています。京都での署名のとりくみをすすめるために、京都府生協連に結集するみなさんと一緒に活動できることは、私たちにとても大きな励みとなっています。

核兵器の全面禁止・廃絶のためにもにがんばりましょう。

通常総会の成功と京都府生協連の新たな前進を心から期待し、メッセージとします。

2017年6月13日

花垣ルミ（京都原水爆被災者懇談会世話人代表）

平 信行（京都「被爆2世・3世の会」世話人代表）

渡邊賢治（原水爆禁止京都協議会代表理事）

2017年度役員体制 6月18日現在 (敬称略)

*印は新任

代表理事・会長理事	上 掛 利 博 (員外)
副会長理事	畑 忠 男 (京都生活協同組合理事長)
*副会長理事	中 島 達 弥 (京都大学生生活協同組合専務理事)
代表理事・専務理事	高 取 淳 (員外)
常任理事	本 多 浩 (京都府庁生活協同組合専務理事)
*常任理事	中 森 一 朗 (大学生生活協同組合関西北陸事業連合専務理事)
*常任理事	大 森 俊 次 (京都医療生活協同組合専務理事)
*理 事	大 塚 正 文 (京都橘学園生活協同組合専務理事)
理 事	岡 田 照 雄 (京都市民共済生活協同組合専務理事)
理 事	上 総 紫 香 子 (生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ副理事長)
理 事	川 村 幸 子 (京都生活協同組合副理事長)
*理 事	河 野 直 (京都生活協同組合常務理事)
理 事	坂 本 真 有 美 (生活協同組合コープ自然派京都理事長)
理 事	杉 本 頼 正 (京都高齢者生活協同組合くらしコープ副理事長)
*理 事	田 中 と み 子 (乙訓医療生活協同組合専務理事)
*理 事	谷 口 一 宏 (龍谷大学生生活協同組合専務理事)
理 事	堂 本 吉 次 (やましろ健康医療生活協同組合専務理事)
理 事	山 川 修 司 (全京都勤労者共済生活協同組合専務理事)
*特定監事	長 誠 一 郎 (乙訓医療生活協同組合監事)
監 事	石 井 聡 (京都生活協同組合常勤監事)
監 事	鯉 迫 裕 子 (同志社生活協同組合専務理事)
(事務局)	
事務局長	酒 向 直 之
事務局担当	川 端 浩 子
事務局担当	岡 本 朋 子



高取淳専務理事

当日は8人の代議員・オブザーバーから、地域生協・大学生協・医療生協・職域生協、共済生協、高齢者生協の活動について、8件の活発な発言がありました。

これらの発言をふまえ、高取淳専務理事が、「京都の生協がそれぞれの分野で組合員の要求にこたえて、旺盛に取り組まれていることが伝わる内容だった。これからも新・京都の生協の課題と京都府生協連の役割(※)にもとづく活動をすすめていきたい」と、まとめをおこないました。

発言者とテーマ



生協生活クラブ京都エル・コープ 池田 あゆみ 代議員

「生活クラブの甲状腺検査活動」



京都生協 杉山 康代 代議員

「子育て応援の取組み」



京都医療生協 清水 泰治 代議員

「生協運動と眼科経営をいかに結びつけるかの課題に向けた活動」



全京都勤労者共済生協 松本 浩 代議員

「全京都勤労者共済生協(全労済京都府本部)活動報告」



生協コープ自然派京都 平出 美和子 代議員

「2016年度の組合員活動の報告」



京都高齢者生協くらしコープ 石澤 春彦 オブザーバー

「京都ソリデール事業と共同募事業」



京都府立医科大学 府立大学生協 末廣 恭雄 代議員

「農村体験ツアー」



京都府庁生協 小西 重和 代議員

「供給回復に努力し、存在意義ある活動を」

今回退任された役員のみなさん (敬称略)

理事	鯨 江 賢 光 (京都生活協同組合常務理事)
理事	酒 井 克 彦 (立命館生活協同組合専務理事)
理事	林 章 司 (京都工芸繊維大学生生活協同組合専務理事)
理事	小 野 留 美 子 (乙訓医療生活協同組合前専務理事)
特定監事	今 西 静 生 (京都府庁生活協同組合元専務理事)

誰が安心してへらへらする地域・社会づくりをめざして

〜新・京都の生協の課題と京都府生協連の役割〜

京都の生協の5つの課題

- ① 生協の事業と活動の総合力を発揮し、生活の文化的・経済的向上をめざします
- ② 消費者市民社会の主人公として、よりよい社会づくりに貢献します
- ③ 安心してくらす地域経済・社会づくりをめざします
- ④ 協同と連帯の力で活動を推進します
- ⑤ 組合員参加をひろげ、安定した事業と経営を確立します

京都府生協連の4つの役割

- ① 学びと交流
- ② 生協間の協同・連携
- ③ 行政・諸団体との連携
- ④ 生協の姿を社会に発信し、理解をひろげる

ピースアクション京都 2017

6月21日(水)、京都府生協連のよびかけで
生協組合員約100人が雨の中、ピースパレードに参加



京都府生協連・上掛利博会長理事、「ヒバクシャ国際署名」キャンペーンリーダー・林田光弘さん、生協コープ自然派京都・坂本真有美理事長、京都原水爆被災者懇談会世話人代表・花垣ルミさんが先頭をきって行進

6月21日(水)、「2017年ピースパレード京都」が取り組まれました。「平和と核廃絶の願いをもちより、広島・長崎の世界大会につなげよう」との趣旨ではじまった京都の生協のピースパレードは、今年で34回目をおこなえました。

京都府生協連のよびかけで、京都生協・生協コープ自然派京都・大学生協などのほか、鳥取県の生協からの参加もあり、組合員・役員100人が「みんなでいこうピース&ピース 今ある平和はたからも



鳥取県の生協のみなさん



京都生協役員のみなさん

の「未来をつくるのはわたしたち」『ヒバクシャ国際署名』をひろげましょう！」をテーマに、街ゆく人びとに力づくよく訴えました。

あいにくの雨となった今年のパレードでしたが、行進が始まるころには雨も上がり、多くの観光客の中を祇園石段下から四条通り、河原町通りをすすんで、京都市役所へ。

全国の被爆者らが中心となつてすすめる「ヒバクシャ国際署名」への協力を呼びかける折り鶴や署名用紙を配りながらの行進となりました。パレードの出発の前に、円山公園内で出発集会が開かれました。



京都府生協連・川村幸子理事
(京都生協副理事長)

ゴールとなった京都市役所前では、まとめ集会がおこなわれ、京都府生協連・川村幸子理事(京都生協副理事長)が生協を代表して「ヒバクシヤ国際署名をひろげ、平和な社会の実現に向けて活動をすすめていきましょう」とあいさつをおこないました。



今ある平和はたからもの—未来をつくるのはわたしたち—
「ヒバクシヤ国際署名」をひろげましょう!

2017年原水爆禁止国民平和
大行進実行委員会へのメッセージ

※抜粋

広島・長崎への被爆投下から72年を経て核兵器のない世界の実現にむけて大きな一歩をかみだそうとしています。5月22日、核兵器禁止条約の草案が発表されました。条約草案の前文で「核兵器の被害者(ヒバクシヤ)および核実験の被害者の苦しみに留意し、「核兵器廃絶を誠実に追及する」ことを表明しています。核兵器の悲惨さを体験した唯一の国にあり、核兵器をなくすためのとりくみを進めてきた生活協同組合としては、心から歓迎するものです。今、「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」(ヒバクシヤ国際署名)を共同の力で成功させるとりくみがはじまっています。一人ひとりの署名が、核兵器廃絶を求める世論となり、必ず国際政治を動かすと確信しています。私たちが子どもたちの平和な未来に核兵器は必要ありません。被爆者の「核戦争起こすな、核兵器をなくせ」「ふたたび被爆者をつくらない」という切実な願いにしっかりと向き合い、核兵器廃絶の転機となる年にしていきましょう。

京都の生協は、被爆者の皆さんとともに「ヒバクシヤ国際署名」を大きくひろげ、戦争も核兵器もない平和な社会の実現に向けて、役割を發揮してまいります。

平和行進のとりくみが、そのための力強い一歩となることを確認し、みなさまと一緒に、楽しく、そして声高らかに、平和と安全・安心のくらしの大切さをより多くの京都府民によびかけていきたいと思っております。

2017年6月21日

京都府生活協同組合連合会

会長理事 上掛 利博

「ヒバクシヤ国際署名」学習会

4月15日(土)、京都社会福祉会館で、核兵器禁止条約実現へ「ヒバクシヤ国際署名」をひろげよう! 「核兵器禁止・廃絶を」とん学習する会」が開催され、110人が参加しました。

主催は、「ヒバクシヤ国際署名を大きくひろげる京都の会(仮称)」の結成を呼びかけた、京都原水爆被災者懇談会、京都「被爆2世・3世の会」、原水爆禁止京都協議会、京都府生活協同組合連合会の4団体。

京都原水爆被災者懇談会世話人代表の花垣ルミさんが開会のあいさつをのべ、原水爆禁止世界大会起草委員長などをつとめる、関西



関西学院大学法学部・富田宏治教授

学院大学・富田宏治教授が「核兵器禁止条約実現への画期的な動きとヒバクシヤ国際署名」と題して、講演があり、質疑応答しました。

主催団体から、京都「被爆2世・3世の会」世話人代表平信行さんが、署名運動を京都で成功させるための「ヒバクシヤ国際署名を大きくひろげる京都の会(仮称)」の設立を提案し、多くの参加を呼びかけました。

閉会のあいさつを京都府生協連・高取淳専務理事がおこないました。当日の司会進行は、生協組合員の森垣郁江さん(生協コープ自然派京都)、有地淑羽さん(京都生協)がとめました。

7月5日(水)には、核兵器禁止条約実現へ「ヒバクシヤ国際署名」をひろげよう! 「生協の歴史から戦争と平和を学ぶ」学習会を開催しました。37人が参加しました。主催は、京都府生協連。京都生協テーマ・コミュニティ憲法カフェと

京都高齢者生協くらしコープ環境平和委員会が共催。京都府生協連・上掛利博会長理事による開会のあいさつのもと、日本生協連はじめ多数の生協で役員を歴任されてこられた齋藤嘉璋氏より、「生協の歴史から戦争と平和を学ぶ」をテーマに講演がありました。後半では、6月15日から開催され、核兵器禁止条約制定に向けて話し合われた国連第2会期に参加された、米重節男さんより、核兵器禁止条約制定に向けての話し合いの様子について報告がありました。

最後に、京都高齢者生協くらしコープ・水口武夫理事長よりヒバクシヤ国際署名の呼びかけと閉会のあいさつがありました。



日本生協連元常務理事・齋藤嘉璋氏

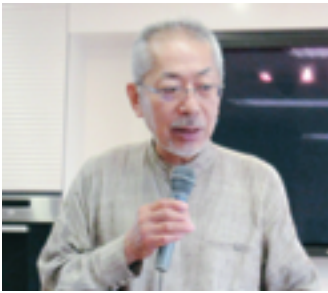
きょうと食育ネットワーク総会
・実践型食育講演会

6月25日(日)、ラ・キャリエールクッキングスクールで開催されました。

代表の同志社大学政策学部・総合政策科学研究科・今里滋教授が開会のあいさつをおこないました。

第1号議案「役員を選任について」、第2号議案「平成29年度事業計画(案)について」が承認されました。

同ネットワークは、食育にかんする普及・啓発、情報の収集・提供、食育支援活動の登録・提供などの取り組みをおこなっており、行政、保健衛生、農林水産、教育・大学、商工、消費者団体、報道関係などの幅広い分野から、89団



きょうと食育ネットワーク・今里滋代表



南極料理人・西村淳さんが講演

体(2017年6月現在)が会員登録しています。

総会終了後、「もったいない!みんなで減らそう『食品ロス』」というテーマで、実践型食育講演会と、食材を無駄にしない使い切り料理教室が開催されました。京都府生協連からは、酒向直之事務局長が同ネットワーク幹事をつとめています。



使い切り料理教室

京都食品産業協会定時総会

6月21日(水)、京都ホテルオークラで開催されました。

同協会・山本隆英会長が開会あいさつをおこない、提案された第1号議案「平成28年度事業報告及び財務諸表類承認の件」第2号議案「平成28年度公益目的支出計画実施報告の件」など、すべての議案が承認されました。

総会後に、(株)三越伊勢丹食品・レストラン統括部・村山慎一担当部長による講演がありました。

京都府生協連からは、畑忠男副会長理事がひきつづき、理事に選出されました。

京都市ごみ減量推進会議
第21回通常総会

6月9日(金)、御所西京都平安ホテルで開催されました。

京都市ごみ減量推進会議は、ごみ減量に関する意識の高揚を図るとともに、地域でのごみ減量に関する自主的な

取り組みを促進することを目的に、市民・事業者・行政の三者が自発性とパートナーシップを基本として、1996年に発足しました。

509会員のうち、総会には232会員が出席しました。第1号議案として「普及啓発実行委員会」「ごみ減量事業化実行委員会」「地域活動実行委員会」「2R(発生抑制、再利用)型エコタウン構築事業実行委員会」「設立20周年記念事業」の活動報告が各委員長よりありました。

採決では第4号議案まですべての議案が承認されました。ごみを減らす活動を基本に、地域のエコ化につながる活動をめざすという報告や、設立20周年記念事業として、記念式典や記念講演等を開催したとの報告がありました。

京都府生協連では、高取淳専務理事を理事として派出しています。

きょうとアース(あす)
京と地球の共生府民会議総会

5月19日(金)、京都府庁

旧本館会議室において開催されました。

京都府環境部・金谷宗子副部長が開会のあいさつ。

平成28年度事業実績および収支決算について、平成29年度事業計画(案)及び収支予算(案)等についての、すべての議案が承認されました。

その後、構成団体による活動状況・取組事例についての報告がされました。

当会議は、京都府生協連を含む49の団体で構成されています。

京都グリーン購入ネットワーク
第14回通常総会

6月20日(火)、ウイングス京都で開催されました。

京都グリーン購入ネットワークは、「グリーン購入」の普及を通じて京都のものづくりに人々の暮らしがより環境に配慮されたものになるよう働きかけています。ネットワークには、京都府、京都市ほか府内自治体、事業者、市民団体、そして個人が参加し

ています。2016年度事業報告、決算報告、会則の改正等、3号議案まですべての議案が承認されました。会則の改正では、全国グリーン購入ネットワークとの関係を整理したこと、団体名の変更等について議決しました。

京都府生協連では、右近裕子生協活動推進専門委員を幹事として派出しています。

総会
京のアジェンダ21フォーラム

6月26日(月)、京エコロジセンターで開催。総会では、国連のSDGs(持続可能な開発目標)を京都でも活用できるようにするため、検討チームを設立することや、京都議定書誕生20周年の取組みを、市民や事業者、他団体とも連携し実施するとの報告がありました。採決では第5号議案まですべての議案が承認されました。403会員のうち、総会には253会員(委任出席含む)が出席しました。

京都地球温暖化防止府民会議総会



京都地球温暖化防止活動推進センター・木原浩貴事務局長

6月23日(金)、京都府立大学において開催されました。平成28年度事業報告、決算、平成29年度事業計画、予算、定款変更等、すべての議案が承認されました。平成29年度の方針では、パリ協定の発効を受けて、ビジョンをこれまでの「低炭素型のステキな京都」から「脱炭素型のステキな京都」の実現に変更し、より活動を強化することを目指します。また、京都議定書採択から20周年にあたるという契機を活かし、情報発信等を広く展開します。

総会前の関連セミナーは、「欧州で見た豊かな地域」欧

州調査報告」と題して、京都府地球温暖化防止活動推進センター・木原浩貴事務局長より、「ドイツやオーストリアの温暖化対策についての報告があり、気候変動対策が暮らしと地域を豊かにすること、そのための国の政策が重要であることについて学びました。

全京都勤労者共済生協(全労済京都府本部)・京都労済創立60周年記念式典・レセプション

6月19日(月)、京都ホテルオークラにおいて開催されました。全労済京都府本部・京都労済では、組合員の生活



鏡開きをする京都府生協連・上掛利博会長理事(右から3人目)

を守り、豊かな社会づくりのための共済事業をおこなっています。京都府生協連からは、高取淳専務理事が理事をつとめています。

記念講演では、二宮金次郎の七代目子孫の中桐万里子さんより、「つなごう、新しい明日へ」二宮金次郎から学ぶ豊かな社会づくり」と題し、二宮金次郎の報徳の心は協同組合の考えにも通じているとお話をされました。

京都勤労者福祉協議会定期総会・京都府内社会貢献活動

5月25日(木)、(公財)京都勤労者総合会館ラポール京都で開催されました。

京都勤労者福祉協議会(京都労福協)は、「連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくろう!」をスローガンに掲げ、行政や労働団体などの関係団体と連携し、勤労者福祉の向上などさまざまな活動を展開しています。提案された「2016年度活動報告・会計報告等」「2017年度活



京都勤労者福祉協議会・橋元信一会長

動方針・予算」等の議案すべてが承認されました。京都府生協連では高取淳専務理事を理事に派出しています。

6月24日(土)には、海水浴シーズンを前に、舞鶴市三浜の竜宮浜において、海水浴場の流木やペットボトル、海藻などのごみ除去作業のボランティア活動をおこないました。京都労福協会員の家族など140人が参加しました。



ごみ除去作業のボランティア活動

京都府生協連 第23回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」

～組織と事業のイノベーションによる協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

テーマ **安心してくらせる地域・社会づくり**

～貧困・格差の問題を考える。生協として何ができるのか～

4月11日（火）、コープ御所南ビル会議室で開催し、役員33人が参加しました。

くらしの格差は各世代で広がり、子育て世代や高齢者の多くで生活が苦しいという状況となっています。生協が持つ資源（事業、社会的活動、人）を活用し、地域のさまざまな団体と連携して生協として何ができるのかを考えることを目的に開催されました。

京都府生協連・上掛利博会長理事が開会のあいさつをおこない、本多浩常任理事がコーディネーターをつとめました。



京都府生協連・本多浩常任理事

日本生協連組織推進本部組員活動部・山田浩史氏から「子どもの貧困に関する研究会からの報告」と題して報告がありました。

日本生協連は2020年ビジョン・第2期中期方針の中で「社会的弱者、貧困問題へ



日本生協連組織推進本部組員活動部・山田浩史氏

の取組み」を掲げています。多くの会員生協から、子どもの貧困問題に取り組むことの重要性や、事例研究、支援検討の要望があり、「子どもの貧困」に関する研究会」が設置されました。研究会でまとめた提言や、全国の生協での取組み事例など、こんご生協として果たせる役割や具体的にできることについて報告がありました。



京都府農林水産部食の安心・安全推進課・荒木貴士副課長

次に「京都府食品ロス削減府民会議からの取組み報告」をテーマに、京都府農林水産部食の安心・安全推進課・荒木貴士副課長から「食品ロスの現状」について、京都府健



京都府健康福祉部家庭支援課・能勢弘康副課長

康福祉部家庭支援課・能勢弘康副課長からは「フードバンク」「子ども食堂」などの取組みについて、それぞれ報告がありました。



京都橋学園生協・大塚正文専務理事

話題提供として、地域支援の取組みをテーマに、京都橋学園生協・大塚正文専務理事より、京都橋学園生協で取り組んでいるチャリティーメニューの取組みについて報告があり、意見交換をおこないました。

参加者からは「身近で考えられること、取り組めること等、考えていく必要を感じた」など、多くの感想が寄せられました。

おもな行事のお知らせ

2017年度京都府総合防災訓練

日時：9月3日（日）午前

会場：主会場・八幡市民スポーツ公園及び八幡市民体育館他

※京都府生協連はJAグループとともに緊急物資搬送訓練に参加。

京都府協同組合

「第17回役員体験・交流学校」

主催：京都府協同組合連絡協議会

（JA中央会・森連・JF京都・生協連）

日時：9月13日（水）13：30～14日（木）13：00（予定）

会場：京都府漁業協同組合本所など

テーマ：「京都の水産業について学ぶ」

京都環境フェスティバル2017

主催：京都府・京と地球の共生府

民会議ほか

日時：12月9日（土）～10日（日）

会場：京都府総合見本市会館

（パルスプラザ）

※京都府生協連は会員生協の環境商品、取組み紹介で出展予定。

第48回京都消費者大会

日時：9月28日（木）午後

会場：京都府立総合社会福祉会館

ハートピア京都

京都消費者問題セミナー

日時：10月3日（火）午後

会場：京都府立総合社会福祉会館

ハートピア京都

CO-OP

発行：京都府生活協同組合連合会 TEL075(251)1501
URL: http://www.kyotofu-seikyoren.com E-mail: kyotofu-seikyoren@mac.seikyone.jp

〒604-0857 京都市中京区烏丸通一条上る時絵屋町258番地 コープ御所南ビル4階